

日本の国立公園における標識メッセージのあり方について

親泊 素子

江戸川大学社会学部教授

はじめに

国立公園の公共標識とは、国立公園利用者に対し、その利用の目的、形態、行動等を考えながら、その公園の景観資源や利用情報、施設や自然などの案内、事故防止や自然保護のための注意・利用規制等の情報を伝える公園施設として整備されるべきものである。また、国立公園は、できるだけその公園の優れた自然環境を壊すことなく、周囲と調和のとれた施設として整備すべきものとされる。したがって、整備にあたっては、そのデザイン、適切な材料やサイズ、設置場所にも配慮する必要があるのはもちろんだが、社会的弱者や訪日外国人といった、自然公園の様々な利用者に対する配慮も必要である。

そこで、本研究では、公園標識の中でも、特に禁止・注意・警告といった標識に注目し、それらの標識メッセージの内容、及び多言語対応を中心に調査を行った。

その理由は、注意、規制等のメッセージは、国立公園内利用者の事故防止や公園内の貴重な自然を保護していく上で最も大切な情報であり、いち早く理解してもらわなければならないメッセージでもあるからだ。ま

た、日本の国立公園の標識は「するな」、「やるな」「あたえるな」といった強い禁止や命令口調のメッセージが多いことから、利用者の中には反発を覚えるものも少なくない。外国の国立公園の注意、規制のメッセージを見ると、素直に納得できる文言で書かれているのをしばしば見かける。さらに、この数年、訪日外国人の観光客が増加し、観光庁でもその多言語対応の標識整備に力を入れ始め、環境省でも平成27年8月に自然公園等事業技術指針を改定し、多言語表記対訳語集の改定を行った。そこで、これらの流れも踏まえた上で、現在の国立公園内の禁止、注意、警告等の標識文言や多言語対応の現状について調べてみることにした。

また、外国人利用者にとって、最も切実な問題となるトイレについて調べ、さらにトイレチップへの呼びかけについて、どのようなメッセージで訳されているのかについても調べてみた。

なお、本研究は江戸川大学のフィールド研修先として、毎年出かけている国立公園を対象に、学生と一緒に調査したもので、かならずしも調査対象地域や調査ルートの選択に特別な基準を設けたものではない。しかし、結果として、訪日外国人数の多い国立公園を対象に調査することができたのは幸いであった。

I 調査期間及び調査場所

国内の国立公園

日 時	場 所	調 査 地 域
平成27年 5月30日～31日 6月27日～28日	日光国立公園	世界遺産二社一寺地域、史跡探勝路、戦場ヶ原、湯元温泉地域
平成27年 10月16日～18日	中部山岳国立公園	大正池・コース、河童橋周辺 小梨平キャンプ場等
平成27年 11月4日～7日	釧路、阿寒、 知床国立公園	細岡展望台、塘路湖、阿寒湖、硫黄山、摩周湖 知床遺産センター、知床五湖周辺
平成27年 12月20日	富士箱根伊豆国立 公園箱根地区	箱根湯本、箱根ビジターセンター、箱根神社、恩師箱根公園、箱根関所、 杉並木等
平成28年 5月28日～29日 7月2日～3日	日光国立公園	世界遺産二社一寺地域、史跡探勝路、戦場ヶ原、西ノ湖、千手ヶ浜等
平成28年 11月4日～7日	阿寒、知床、 釧路国立公園	阿寒湖、摩周湖、硫黄山、ウトロ、厚岸 羅臼集団施設地区、細岡展望台 温根内ビジターセンター等

平成28年 12月17日～18日	富士箱根伊豆 国立公園	箱根湯本、早雲山、大涌谷、桃源台、箱根ビジターセンター、芦ノ湖畔、箱根神社、恩賜箱根公園、箱根関所等
平成29年 2月26日～28日	阿蘇くじゅう 国立公園	別府ロープウェイ山麓及び山頂駅、由布岳南登山口、長者原集団施設地区及びビジターセンター、瀬の本高原、大観峯、阿蘇草原保全活動センター、草千里、阿蘇山ロープウェイ駅(阿蘇山公園道路起点)周辺、南阿蘇ビジターセンター、白川水源地域周辺

外国の国立公園等

日 時	場 所	調 査 地 域
平成27年 3月21日～26日、 9月4日～9日	アメリカ ワシントンDC	ホワイトハウス、ワシントン記念塔。リンカーン記念館、ボトマック公園、ジェファーソン記念館、フランクリン・D・ルーズベルト記念公園等
平成28年 3月5日～8日	墾丁国家公園、 台江国家公園、 寿山自然公園	国家公園内集団施設地区ならびにビジターセンター周辺
平成28年 8月27日～8月31日	タロコ国家公園、 陽明山国家公園、 野柳地質公園	タロコビジターセンター、九曲洞、燕子口、陽明公園、陽明書屋等、野柳ジオパークビジターセンター等
平成28年 9月5日～9月12日	ワシントンDC、 ハーパーズ・ フェリー	アーリントン墓地、ペンタゴン、ハーパーズ・フェリーセンター、ハーパーズ・フェリー国立歴史公園、キング牧師記念碑等
平成29年 2月6日～2月10日	シンガポール ブキ・ティマ自然 保護区	ビジターセンター、ハイキングロード等

Ⅱ 調査結果

1. 総括

平成27年から28年度にかけて、北海道の阿寒、知床、釧路国立公園、本州の日光、富士箱根伊豆、中部山岳、九州の阿蘇くじゅう国立公園の7カ所について標識サインの実態調査を行った。調査地はいずれも国内外のビジター利用が多い公園であったので、標識整備は行き届いており、多言語対応も充実していた。おそらく政府の外国人観光客4,000万人誘致に向けての対応が浸透し始めているからではないだろうか。特に、トイレの使用方法やチップに関する外国語対応なども行き届いてきているが、他の注意、案内、解説標識等についてはまだ、十分とは言えない。また、今回は多くの場所で、英語の誤訳や意味不明の標識を見つけたので、環境省等が音頭を取り、地域ごとにそれらの看板チェックをすることが望ましい。

調査を行った国立公園の中でも、中部山岳と阿蘇くじゅう国立公園は、特に多言語対応に関して充実していた。さらに、阿蘇くじゅう国立公園はハード面だけでなく、ソフト面でも充実していた。調査地全体を通して気づいた点は以下のとおりである。

(1) 外国人観光客の多い国立公園は、標識の多言語対応が進んでいる。阿蘇くじゅう国立公園が充実している理由は、中国、台湾、韓国に地理的に近い距

離にあることから、これらの地域からの観光客の数が多いためである。

- (2) 公園全体にわたって多言語対応ができているところと、外国人観光客の多い一部地域のみに力を入れて整備している所とあった。整備予算の関係だろうか。
- (3) 世界遺産やジオパーク等の保護地域と重複指定されている地域は、多言語対応が進んでいるが、どちらかというと、国立公園の影が薄い。また、利用者にとっては、国立公園との関係性がわかりにくいようにも思われる。
- (4) 4カ国語対応はまだままだではあるが、英語対応は多くの場所でなされている。しかし、スペルミス、誤訳がまだ多くみられるのは残念である。
- (5) 英語と日本語を混在した文言の標識があり、わかりにくい。
- (6) 固有名詞と普通名詞とがつながっている場合の訳の仕方について統一がとれていないのではないかと。例えば、箱根の芦ノ湖はLake AshiなのかLake Ashinokoなのか等。
- (7) 外国人に対する禁止・注意標識の多くはピクトグラムで対応しているが、中には外国人が理解しにくいピクトグラムもあった。
- (8) 新旧の標識が混在していたり、乱立していたりしていた場所があり、景観の配慮の改善が求められる。環境省のロゴマークも新しいものと古いものの

両方があり、存在感が薄い。

- (9) 公園によっては地方自治体が独自のデザインを採用しており、同じ公園でありながら、異なるデザインを使用する是非については検討の余地がある。
- (10) トイレ使用、トイレチップに関する多言語対応は、年々良くなってきていた。
- (11) ビジターセンターに英語、韓国語が流暢な職員を配置しているところもあり、こういったソフト面での整備が始まっていることは良い流れである。
- (12) 全体として標識の数がどの公園も多すぎるのではないか。案内、誘導、解説、注意と言ったタイプ別の内容と、禁止、注意、警告サインをどこまで、一体化させるかについても検討の余地がある。

2. 改善すべき点

- (1) すでに観光庁や環境省でも多言語表記の対訳表などが作成され、地名等を訳する場合の基本的ルールができていますので、それにしたがって既存の多言語表記の見直しを行うべきです。
- (2) 注意・警告標識の多言語表記には、違法か、道徳的にやってはいけないのかと言った区別がわかりにくいので、それを理解させる工夫が必要ではないか。例えば、道徳心に訴えるものであれば、Sorryとか、Pleaseといった言葉を含めることで、表現がやわらかくなるし、違法行為に対しては強い文言で書くという方法もある。
- (3) 注意、警告などの標識は、できるだけすぐに理解できることが必要なので、多言語対応の前に、万国共通のピクトグラムを活用をより一層進めるべきである。
- (4) 国立公園に関係する自治体が集まって、統一したオリジナルのデザインや文言などを考えると、不統一性や非連続性を払しょくできるのではないか。
- (5) ハードによる整備が進んでいる中、外国語に対応できる職員の配置等ソフト面でのより一層の充実を期待したい。
- (6) 日本の地域制の国立公園といった特殊性から、多くの省庁や地方自治体、民間組織が同じ場所に別々で標識を設置しているが、標識の乱立を減らす工夫が必要ではないか。
- (7) 標識デザインに統一したロゴを用いることで、国立公園のIDを理解させられるのではないか。現状では環境省のロゴだけではなく、標識を作成する組織や機関に委ねられているケースが多い。こういった組織間での統一が難しい場合には、台湾の国家公园のように、各公園ごとに特色あるロゴを作成することもあり得るのではないか。

3. 各公園で具体的に気付いた点

- (1) 釧路湿原国立公園
 - ① 釧路湿原国立公園という看板や、細岡展望台等の多くの観光客が来る場所での多言語標識が未整備である。
 - ② 釧路湿原マップの英語表記に間違いがみられる。
- (2) 阿寒国立公園
 - ① 明らかに日本語の内容と英語訳が違っている標識がある。
「ヤケド注意」の英語訳が、「Hot Spring」と書かれており、注意標識にはなっていない。(写真1)例えば、Caution: Hotとするだけでも違ってくるのではないか。
 - ② 中国やベトナム等では、トイレで使用した紙を便器に捨てずに脇のごみ箱に入れる場合が多いので、それを注意するポスターがトイレ内に貼られていた。一昨年に調査した時には、絵のみでわかりにくかったが、28年度の調査では改善されていた。また、注目すべきは、中国語でのみの説明であり、おそらく文化的な習慣を考慮して、欧米の観光客には不必要だとしての多言語対応であろう。(写真2, 3)
- (3) 知床国立公園
 - ① 世界遺産地域の指定もなされているところから、公園区域内の多言語対応はしっかり整備されている。一部、遊歩道への立ち入り禁止とかの禁止事項の多言語対応が必要ではないかと思われる箇所もあったが、注意、規制に関する標識はきちんとなされていた。



(写真1) 対訳があてない注意標識：阿寒国立公園



(写真2) 古いトイレ使用の説明:阿寒国立公園



(写真3) 改良されたトイレ使用の説明:阿寒国立公園

- ② 英語表記がNational ParkよりWorld Heritageと書かれている標識が多い印象がある。ここが国立公園でもあるという理解を外国人観光客にどのように示すかが今後の課題となるであろう。
- ③ 知床五湖の新しく整備された高架木道の禁止・注意標識の多言語対応はきちんとなされていたが、五湖を回るトレイルの標識は古いままで、早急な対応が必要である。

(4) 日光国立公園

日光国立公園は、東京からの距離も近く、世界遺産地域であるだけに、外国人利用の多い公園である。したがって、東武日光駅やJR日光駅周辺の案内標識の多言語対応はかなり充実している。また、案内所でも多言語対応のできる職員をおいており、駅前には常に外国人観光客でにぎわっている。また、日光駅から湯元

温泉までのバスは4カ国語対応で案内を行っており、外国人観光客にとってはありがたいが、時として運転手に外国人が質問をした時にトラブルが発生していた。今後はより一層のソフト面での充実が望まれる。

以下、日光国立公園の調査結果で気付いた点である。

- ① 駅周辺、二社一寺周辺、並びに交通アクセスに関する案内、誘導標識は多言語対応ができていていると思われるが、外国人観光客の利用がまだ少ない東照宮に隣接する史跡探勝路や中禅寺から奥への戦場ヶ原、小田代ヶ原、西ノ湖、千手ヶ浜、菖蒲ヶ浜、湯元地区等のトレイルの注意、利用規制、あるいは解説標識の多言語対応が十分ではない。以下の注意・規制標識は、それらの地域のみられた看板であるが、多言語での対応が望まれる文言でもある。

- ・林内に入らないでください
- ・クマ出没注意
- ・キャンプ禁止
- ・転落危険箇所・足元注意
- ・これから先、歩行注意
- ・落石注意
- ・4時間10kmトイレなし
- ・落雪注意 危険上を見てください
- ・貴重な湿原植物を守るため、湿原内へは立ち入らないでください。

- ② 老朽化した標識がそのまま放置してあり、文字が全く見えなくなっているものもある。また、傷んだ標識のとなりに新しい標識を取り付けているにもかかわらず、古い標識を撤去していない場所もあり、周囲の景観にマイナスである。また、案内、誘導、解説、注意、禁止標識が乱立しているために、せっかくの自然環境が損なわれていると感じる場所もある。(写真4)

- ③ 案内の内容が不十分だったり、英語のスペルミスがあつたりと、訂正が必要な標識もある。

英語のスペルミスの事例(写真5)

- ・遊覧船発着所の英語が Shobu Plesure Boat Terminal となっていた。Cruise Terminal がいいのではないか。
- ・中禅寺湖畔ボートが Lake Cyuzer は Lake Cruise への修正を勧める。
- ・三本松が Sambomnatsu → Sanbonmatsu が正しいのでは。
- ・いろは坂が Iroha Sroupe は完全なスペルミス。したがって Irohazaka Slope に修正を。
- ・4時間が 4 hour は複数形の 4 hours に修正。

- ④ 一方で車の乗り入れ禁止に対して、「ここから



(写真4) 老朽化した標識：日光国立公園



(写真5) 英訳の間違い：日光国立公園



(写真6) 車規制の優しい表現：日光国立公園

湖畔の散歩道」というソフトな表現を使うことで、利用者の心を素直にさせる。(写真6)

- ⑤ 赤沼では、多言語対応のかわりにピクトグラムを使って禁止事項を伝えており、他の場所での注意・規制標識にもっと活用してもいいのではと思われる。
- ⑥ また、「かけがえのない奥日光の森林の次世代

を担う若い芽が健やかに育つよう、あなたも柵の外から見守って下さい」という表現は、そのニュアンスが多言語でも伝わるように訳せるといいのではと思ったが、まだ、多言語対応での標識はみつからなかった。

(5) 富士箱根伊豆国立公園

今回は箱根地区を中心とする調査であったが、この地区は日本で最も外国人観光客に人気のある場所だけに多言語対応は問題ない。しかし、地方自治体や民間が作成したと見られる標識の中には、日本語と英語がミックスした意味不明の標識もあり、環境省等が中心となって標準化を図る必要があるのではないかと。また、箱根地区では、「富士箱根伊豆国立公園」の文字が入った看板がほとんど見当たらず、せっかく外国人に人気のある地域にもかかわらず、その存在感を認識させることができないのは残念である。

以下、富士箱根伊豆国立公園の箱根地区で気づいた点である。

- ① 日本語と英語がミックスしており、多言語対応の努力が報われていない標識が見られたことである。例えば、「水 STOP」と書かれており、節水を促しているのであるが、これでは意味が伝わりにくい。(写真7)
- ② 直訳ではなく、内容が分かりやすいニュアンスに書き換えた方がよい標識もあった。
例えば、「this is a desk Please do not sit down」という訳は、ここは座る椅子ではなく机であるということを言わんとしているのだが、実際、その机は長椅子のようなデザインで、利用者が座ってしまいそうなものであった。(写真8)
「Please do not sit down」ではなく「Please don't sit on it」に。
- ③ 古い看板の上に英語を追加した標識を貼っている例も見られたが、これも多言語対応の応急策であるとみられるが、無いよりはあった方が外国人にとってはありがたいのではないかと。
- ④ 人が多く集まる乗船場に、「乗船場付近は、歩行者多し、自転車は降りて通行」と書かれていたが、これなども多言語での看板が欲しい。

(6) 中部山岳国立公園

中部山岳国立公園の多くの標識は新しく、案内、誘導、解説、注意標識など、どれも多言語対応ができており、モデル地区になりうる国立公園といえよう。特に、トイレチップに対しては、詳しい説明をすることで、利用者への理解を促しているのは好ましい。ま



(写真7) 日本語と英語がミックスしたサイン：富士箱根伊豆国立公園



(写真10) トイレチップの説明：中部山岳国立公園



(写真8) 座る椅子ではないことを言わんとしているのだが：富士箱根伊豆国立公園



(写真11) 多言語なしのトイレ使用について：中部山岳国立公園



(写真9) トイレチップのお願い：中部山岳国立公園

た、多くの看板に National Park という文字を英語表記で入れており、国立公園内にあることがはっきりわかる標識がつくられていた。次の改善は、英語標識をもう少し、温かみのある文言で書く等の工夫があると、かなり質の高い公園としての評価を得ることができよう。(写真9, 10)

中部山岳国立公園の標識デザインは比較的新しく、色、材質等も統一が取れていてきれいであり、特に河童橋周辺の標識やトイレのチップに対する説明などは大変わかりやすい。ただ、小梨平キャンプ場の多言語対応はまだ不十分である。また、数カ所の場所で日本語の対訳とはなっていない看板があった。例えば、

- ① 「トイレご利用の皆様へ トイレトーパーは常備していません。あらかじめペーパーなどご用意の上、ご利用ください」の英訳版がない。救いは「Toilet Tissues. Vender」と書かれたものが、その横にあったことである。(写真11)
- ② 「上高地の美味しい水、飲めます」→ This refreshing Mineral Water is from Kamikochi とだけかかれていた。(写真12)
- ③ 「ドアの開放厳禁」の英語版も欲しい。

(7) 阿蘇くじゅう国立公園

阿蘇くじゅう国立公園は、多言語対応の整備がかなり進んでおり、場所によっては、日、英、中、台、韓の5カ国語で対応をしている。以下が気づいた点である。



(写真12) 対訳が不十分:中部山岳国立公園



(写真13) 乱立する標識:阿蘇くじゅう国立公園



(写真14) 阿蘇市とジオパークジャパンが作った解説板

- ① 比較的、標識の整備は進んでいたが、中にはなんと10以上の標識が乱立しており、自然景観を損なっていると感じる場所があった。(写真13)
- ② 阿蘇くじゅう国立公園は、熊本県と大分県にまたがる国立公園というので2地域の 看板標識の形のデザインが異なっていた。
- ③ 国立公園であると同時にジオパークとして指定をされている地域では、ジオパークを管理する団体の看板が目立ちすぎて、国立公園とジオパーク



(写真15) 熊本県が作った解説板

とが重複して指定されている日本の特異な関係を理解できない外国人観光客にとっては、混乱の原因となるのではないだろうか。(写真14, 15)

- ④ 温度表示の標識があったが、摂氏のみでの表示になっていた。もし、多言語対応を考慮するのであれば、華氏での表示も欲しい。
- ④ 長者原ビジターセンターでは、英語、韓国語の解説のできる職員を採用することで、ビジターセンター内の多言語解説も充実しており、また訪れる外国人ビジターに対しても外国語で対応できるサービスが用意されていた。

Ⅲ 未訳の提案

調査対象地域で見た、必要と思われる未訳についての対訳提案は以下のとおりである。

- 遊歩道への立ち入り禁止 → No Entry
- 林内に入らないでください
→ No Entry to the Woods
- クマ出没注意 → Beware: Bears
- キャンプ禁止 → No Camping
- 転落危険箇所、歩行注意 → Watch Your Step!
- これから先、歩行注意 → Enter with Caution
- 落石注意 →
Warning: Rock Fall Area. Do Not Stop!
- 4時間10km トイレなし → Next Toilet 10km
- 落雪注意 危険 上を見てください
→ Caution: Falling Snow
- ここから湖畔の散歩道 → Lakeside Promenade
- 節水にご協力ください
→ Please Help Conserve Water

- トイレトペーパーは常備していません。あらかじめペーパーなど、ご用意の上、ご利用ください。
→ Toilet Paper Not Provided !
- 上高地のおいしい水、飲めます → Help Yourself to Pure Drinking Water from Kamikochi !
- ドアの開放厳禁 → Please Shut the Door !

IV 外国の標識について

外国の国立公園の標識デザインの良さは、その統一性と連続性である。特に、アメリカの国立公園のデザインの原則として、茶地に白地、そして必ず、アメリカ国立公園局のロゴが入っていることである。看板の中での大きさ、位置等は、その標識の用途や建てる場所等によって、決めるとのことだが、その統一性は非常に公園のアイデンティティをアピールするうえでわかりやすい。また、文言がかならずしも紋切り型の表現ではなく、時として、なぜ注意か、禁止かと言った説明を簡単に添えることで、利用者の道徳心を促すという効果的な手法をとっている事例もある。さらに、詩の一部を引用し、場所によってはユーモラスな表現を使って注意を引いている標識もある。

ハーバース・フェリーセンターの所長さんにインタビューをしたところ、これらの文言作成には生みの苦しみを感じるほどの苦労を時としてすることがあるという。いわばコピーライターのような瞬時にメッセージが伝わる言葉探しに毎回苦労をしているようである。したがって、我々も、日本語のみならず、対訳に対しても、その内容が効果的に伝わる言葉を選択すべきである。下記にいくつかの良い事例や面白い事例を紹介してみる。

1. Think Safety, Act Safely
2. Take nothing but pictures, Leave nothing but footprints
3. Enjoy a short hike along a portion of this famous trail; a 2000 mile footpath from Main to Georgia
4. You are now entering a stress free zone
5. Primitive Trail: Difficult Hiking
6. Please: Let Wild animals Be Wild
7. Please: Let Me Survive !
8. Be Nice or Leave
9. In case of Emergency: Run Like Hell
10. Unstable Cliff Area: Danger People and Dogs have been injured falling from these cliffs, Stay back from the Edge !
11. Warning: Bear Frequenting Area !

12. Touching Wires causes Instant Death \$200 Fine
13. Your enjoyment and safety are Our concern but your responsibility
Caring... Naturally
14. You CAN DIE: This is your Decision !
15. Hikers and Bikers: Please Stop and Move to the Side of the Road When a Vehicle is Approaching !
16. Volcanic Fumes Are Hazardous to Your Health And May Be Life Threatening:
Do Not Enter This Area !
17. Lady's slippers in Bloom: Please Do Not Enter !

Prayer of the Woods

I am the heat of your hearth on the cold winter nights, the friendly shade screening you from the summer sun, and my fruits are refreshing draughts quenching your thirst as you journey on.

I am the beam that holds your house, the board of your table, the bed on which you lie, and the timber that builds your boat.

I am the handle of your hoe, the door of your homestead, the wood of your cradle, and the shell of your coffin.

I am the bread of kindness and the flower of beauty.

Ye who pass by, listen to my prayer:

Harm me not.

結 論

平成27年度に比較し、平成28年度の調査では、国立公園内における多言語標識の整備が進んでいることが明らかになった。しかし、日本の地域制の課題でもある、環境省、林野庁、地方自治体、指定管理団体、地元の商工会議所、観光協会、土地所有者等による標識デザイン整備は統一感に欠け、特にそれらが乱立している場合は、明らかに公園の景観を壊しており、それらの看板をいかにまとめていくのが今後の大きな課題となるであろう。

また、ビジターにとっては不可欠のトイレの使用法、危険サイン、法律に触れる禁止事項、警告サイン等の4カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)対応の標識はどこの国立公園でも気を使って整備がなされていたが、詳細の説明文に誤訳がみられた。また、昨年度の調査では、西洋式トイレの使用法に関して、図や中国語で翻訳をしているケースもみつきり、西洋式トイレではない中国人利用者を特に意識しての配慮だ

と思われる。やみくもにすべての標識を4カ国語の多言語で表示する必要はなく、利用者の国の文化的背景を考慮しながらの標識工夫はこれからも必要である。

日本の国立公園は、国有地の手つかずの自然のみが指定されているわけではなく、国立公園地域には文化遺産や農業遺産等、多様な観光資源が存在している。特に、日本の国立公園内には温泉や社寺仏閣も多く、その地域独特の祭りや行事なども体験できるのが日本の国立公園のよさである。そういった側面から、国立公園内の標識の解説も、日本文化や地域の風習や習慣までも理解できるものが取り入れられると面白い。例えば、温泉街と温泉の違いをどのように説明するか。奥日光の湯元には、入口に「湯元温泉」という標識があるのだが、外国人は湯元温泉というのは一つの建物と理解しており、「湯元温泉地区」とか、「温泉街」といった意味を示す英訳が求められる。また、神社での手水の作法、参拝方法、鳥居の通り方等、外国人から「Why?」とか、「How?」とかの質問をされる。文化的理解を必要とするマナーに対して、単に注意サインが書かれていても、彼らは腑に落ちないようなのである。これらについては今後の整備の課題となるであろう。

また、日本の国立公園は、多目的土地利用を容認しているところから、多くの省庁が関係し、さらに土地所有者がその主導権を持っているところから、環境省が統一した看板標識を整備したくてもできない難しさはあるが、少なくともそれぞれの国立公園ごとに統一した標識サインを用いることで、調和のとれた景観整備ができるのではないだろうか。

なお、現在作業中の報告書には、できるだけ使用頻度の高い標識については、正しい英文対応訳の表も入れ込む予定である。それによって、地方自治体や民間の多言語標識サインの対応に苦勞をしている方々のお

役に立ちたいと思っている。

最後に各地の国立公園を調査した際には、環境省地方環境事務所や自然保護官事務所、一般財団法人自然公園財団、各地ビジターセンター、ロープウェイ会社等の地元の民間団体の方々に大変お世話になりました。深く御礼を申し上げます。

調査チーム氏名

1 親泊素子(研究者代表)	学生アシスタント
2 土屋 薫	1 信瀬麻由
3 吉永明弘	2 栗林 聖
4 油井正昭	3 保坂拓也
5 宮地信良	4 安間飛翔
6 鹿野久男	5 及川 瞭
7 Sonya M Underdahl	6 生沼美夏
8 Peter Ross	7 井出滉平
	8 佐藤智克

参考文献

- 1) 親泊素子(2010)：「アメリカの国立公園における標識デザインのルーツを探る～世界の国立公園のデザインポリシーに与えた影響～」『環境国際協力』Vol.5 13-32
- 2) 環境省(2015)：「自然公園等施設技術指針」第7章 公共標識(サイン類)
- 3) 国土交通省・観光庁(2014)：観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン
- 4) 財団法人自然公園財団(2004)：国際対応標識整備手法現状調査報告書

(注) 阿寒国立公園は平成29年8月8日に阿寒摩周国立公園に名称が変更されました。